

2005

12.15

広報

はむら



特集

年齢にとらわれない生き方

いきいき'92

1

CONTENTS

■お知らせ	5
■年末年始のお知らせ	13
■人事行政の運営などの状況を公表します	15
■健康ガイド	17
■団体のひろば	18

表紙の写真：

ボランティア団体『いきいき'92』（青空市にて）エイジレスライフ社会参加章に選ばれた『いきいき'92』。特集では、そのさまざまな活動から「年齢にとらわれない生き方」について考えます。（1 ページから）



特 集

年齢にとらわれない これからの生き方

いきいき'92

世界でも例を見ない速度で進む、日本の高齢化。一般に、65歳以上の高齢者の人口比率が14%を超えた社会を「高齢社会」と言いますが、日本の高齢化率は19・5%（総務省統計局「推計人口」平成16年10月1日現在）で、国際的に比較しても非常に高くなっています。

羽村市の高齢化率は、15・5%（平成17年11月1日現在）。全国値と比較すると低い数値ですが、今後さらに高齢化が進むと推測されています。

高齢化が進むとともに、高齢者のいきがづくりや地域での生活が見直されています。「活力ある地域」であるためには、さまざまな世代の市民が、それぞれ社会を構成し地域に暮らす市民の一人であることを認識し、いきがいをもって暮らしていくことが必要ではないでしょうか。

市内でボランティア活動を中心に活動している『いきいき'92』。さまざまな行事に積極的に参加し、地域との関わりを持ちながら活動しています。

今年、内閣府が行ったエイジレスライフ（年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由で生き生きとした生活を送ること）社会参加章に選ばれ、その活動が評価されました。

『いきいき'92』の活動から、年齢にとらわれない生き方を考えてみませんか。



『いきいき92』は、定年後の生活をいきいきと過ごすための熟年男性の会として、1992年に結成されました。これまで地域で過ごす時間が少なかった人の中には、定年後、地域で暮らすことに戸惑いを持つ人もいます。そこで、ゆとりと健康を保ちながら充実した生活を送ろうと仲間が集い、発足しました。

今では、社会福祉活動を通じて生きがいのある豊かな人生を送るとともに、会員相互の親睦を図ることを目的に活動しています。

会員は7人の女性賛助会員を含め40人。「楽しみながらのボランティア」をモットーとしています。

育成です。

以前は多摩川の河川敷に多く自生していたカワラノギクですが、今では、自然環境の変化により絶滅の危機に瀕しています。

市内には2つのカワラノギク保護団体が活動しており、カワラノギクを育成しています。保護団体の一つが『いきいき92』です。

『いきいき92』がカワラノギクの保護活動を行うようになったのは数年前。花好きのメンバー石田良實さん(初代代表)が「多摩川河川敷にカワラノギクの花を戻したい」と他のメンバーに相談を持ちかけたところ賛同を受け、保護・育成活動を行うことが決まりました。

活動は、主に春の種まきと夏の雑草取り。もともと野生植物であるカワラノギクがたくましく育つために、できるだけ人の手を加えないようにしています。しかし、他の植物が生えたと養分を取られちゃうため、雑草を取らなければいけません。「真夏の炎天下の下、汗をかきながら活動しましたね。」メンバーの一人はカワラノギクの保護活動について語ります。

絶滅危惧種 カワラノギクを救う

古いものを守ることで
新しいものをつくりだす――

『いきいき92』が行っている活動の中で、特に力を入れているものの一つが、カワラノギクの保護・



台風の影響を受けた年もありました。河川が氾濫し、育てていたカワラノギクがなぎ倒されたのです。全滅かと心配されましたが、水が引いたあと保護地区の宮の下運動公園に行くと、強靱な生命力で生き残ったカワラノギクを見つけることができました。『いきいき92』は、倒れたカワラノギクを起こし、保護を続けました。そして、会員が見守る中、秋には淡紫色の小さな花を咲かせたのです。

今年も『いきいき92』の保護活動により、カワラノギクは花を咲かせました。今では一面に咲くカワラノギクの情景を見ようと、遠くから訪れる観光客も少なくありません。「自分たちが見ていた多摩川の風景を残したい」という思いから活動が始まり、いままでの風景を守るとともに、新しい観光資源としての新しい地域の風景が作られています。

小学校で昔のおもちゃを教える

世代の違う人との関わりの中で伝統を伝えながら、新しいものを吸収する――

『いきいき92』が活動する上で大切にしていること、それは異世代との交流です。さまざまな人と関わり、さまざまな視点を持つことは、豊かな生活を送るためには大切なことです。

『いきいき92』は、さまざまな世代が訪れる行事に積極的に参加し

ています。

恒例の活動となっているのが、羽村東小学校で行われる地域フェスティバルへの参加。地域の人たちと竹を使ったおもちゃを作ろうという企画では、おもちゃづくりの先生として参加しています。

10月22日に行われた羽村東小学校地域フェスティバルに伺うと、『いきいき92』は、子どもたちと一緒におもちゃを作っていました。作っていたのは、けん玉や篠竹鉄砲など、今では見ることが少なくなつたおもちゃです。「教えるというよりも一緒に作るということが何よりの楽しみ」というメンバーの一人。慣れない手つきの子どもたちと熱心におもちゃを作るその姿から、「喜び」があふれていました。

できたばかりのおもちゃで遊ぶ子どもを見て、「自分たちが小さい頃遊んでいたおもちゃが、今でも楽しんでもらえることがうれしいですね」と、笑顔で語ります。

教えたものをそのまま作るのではなく、独自に工夫しておもちゃを完成させる子どもも多くいます。

そんな子どもたちの独創的な発想により刺激を受けることもまた「喜び」につながるのです。

青空市で車いす基金を行う

自分たちが楽しみながら地域に貢献する――

春と秋に行われる青空市で、『いきいき92』はポップコーンなどを販売しています。その売上げ金の一部は車いす基金として積み立てられ、これまでに2台の車椅子を社会福祉協議会と特別養護老人ホーム羽村園に寄付しました。

青空市で食べ物の販売を行うようになったのは、青空市実行委員会から依頼されたのが始まり。リサイクル品などを販売する青空市の会場内で、お客さんが長い時間楽しめるように、食べ物を売ってほしいと依頼されたのです。

そして、「わずかなお金でも、たくさん集まれば車椅子が買える」と車いす基金の積み立てを始めました。

11月19日の青空市でも、ポップコーンやパンを販売しました。会場内で唯一食べ物販売しているとあって、テント前には常に行列ができています。